洛友會報

京都大学工学部電気系教室内
洛　友　会
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
075-753-5270
www.rakuyukai.org

衛星の打ち上げに立ち会って

東京支部長　小森　光修（昭五十年卒）

はじめに

私は昨年6月から1年間、洛友会東京支部長を努めさせていただきました。学部では田中研、修士課程では近藤研でお世話になり、1977年に当時の電電公社に入社しました。1985年のNTT民営化を経て、1999年のNTT再編後は、NTT持株会社、NTT東日本、NTTドコモに籍を置き、計37年間NTTグループに勤務しました。

今から3年前に縁あって現在の会社、スカパーJSAT㈱に移りました。スカパーJSATは衛星通信と有料多チャンネル放送を2大事業とする会社です。衛星通信の分野では現在18機の静止衛星を保有し、世界で5位、アジアで1位、日本で唯一の衛星オペレーターです。

宇宙業界のイノベーション

これまで、商用衛星の世界では静止衛星によるサービスがほとんどです。当社も過去30数年間、専ら静止衛星による通信や放送サービスを提供してきました。

衛星は打ち上げ後の運用期間は一般的に15年程度で、その間は故障しても修理するわけにもいかず高信頼性が要求されるとともに、新しい装置に更新できるわけではありません。このため、私が以前携わってきたモバイル通信の世界に比べると、技術革新のテンポは緩やかでした。しかし近年、この分野にもいくつかの大きな変革、イノベーションの嵐が吹き始めています。

そのひとつがイーロン・マスクの登場に代表される衛星打ち上げの価格破壊です。彼はインターネット決済の「ペイパル」を起業し成功させた後、ベンチャーでロケット打ち上げに挑戦する「スペースX」、さらにかの有名な電気自動車の「テスラモーターズ」や太陽光発電の「ソーラーシティ」を立ち上げ大きな話題を呼んでいます。人類を火星に移住させることを本気で目指しており、今やスティーブ・ジョブズを超える男と言われています。これまで静止衛星の打ち上げ費用は大雑把に言って1機100億円というのが相場でした。スペースX社が開発した「ファルコン9」というロケットは従来より3割程度安くなるという価格破壊を起こし、世界のロケット打ち上げ業界を震撼させました。

衛星打ち上げ

衛星の打ち上げは、膨大な費用と無視できないリスクが付き纏う特別なイベントです。ひとつの衛星を完成させるのは、構想から設計、製造に数多くの人々が携わり数年に亘る大事業です。その集大成といえるのが打ち上げの瞬間です。成功確率は95％以上とは言え、万が一失敗することになればこれまでの苦労が水泡に帰すだけではなく、その影響は甚大です。私は、3年前に当社に着任して以来、幸運にも3度の打ち上げに現地で立ち会うことができました。当社は商用衛星ビジネスで30年以上の実績を誇り数多くの打ち上げを経験しています。多くの社員が衛星の調達プロセスにかかわってきましたが、会社創業時からの古参社員でさえ打上げの現場に立ち会った経験があるのはほんの一握りです。何故なら、打ち上げ実績が多いとは言え、打上げの機会は平均すると1年に1機あるかないかという頻度ですし、打ち上げ射場は海外の遠隔地が多く気軽に出張できるわけではありません。また、打ち上げの日程は設備や装置の不具合や天候の影響で遅延することが日常茶飯事でスケジュール調整が難しく、時には現地に行ったものの空振りに終わることも覚悟しなくてはなりません。多くのハードルを乗り越え、晴れて打ち上げの瞬間に立ち会えることになっても、実際にこの目で見えるのは発射後ほんの一瞬の出来事です。言い換えれば、ほんの一瞬のために払う労力があまりに大きいのです。私の場合には3度ともスケジュール変更に悩まされたものの、見事な成功の瞬間に立ち会うことができました。以下、概要を紹介します。

H－ⅡA　私の打ち上げ初体験は近場から始まりました。2014年12月3日、場所は種子島、JAXAが「はやぶさ2」をH－ⅡAロケットで打ち上げた時です。2年後に当社で初めてのH－ⅡAロケット打ち上げを計画していたため、当社の衛

会報のメール通知サービス
登録受付中

「印刷された会報は要らない。パソコンで読む。環境保護に協力する。」という会員の皆様に、会報の発行をメールでお知らせするサービスを開始しました。

ご希望の方は、「会報メール通知希望」とお名前を 洛友会 e-rakuyu@kuee.kyoto-u.ac.jpまでお送りください。

併せて、技術広報誌cueのメール通知サービスも受け付けております。

星ではないにもかかわらず打ち上げを見る機会に恵まれました。当初の予定ではどうしてもはずせないスケジュールがあり諦めていたのですが、天候のため数日打ち上げが遅延することになったことが幸いし、急遽現地に行けることになりました。初代「はやぶさ」の奇跡的な帰還で世の中に一大ブームを巻き起こした後でメディアの注目も高く、初めての打ち上げ体験に感激したのを今でもはっきり覚えています。

ファルコン9　2回目は当社衛星の打ち上げです。イーロン・マスク率いるスペースX社のファルコン9ロケットで、打ち上げ場所は米国フロリダのケープカナベラル空軍基地です。当社が初めてファルコン9を使うことになりスケジュール遅延はある程度覚悟していたものの、想定以上に振り回されることになりました。ファルコン9は前年6月28日に国際スペースステーションへの輸送機打ち上げに失敗し、事故原因究明のため後続の打ち上げが全てストップする事態に陥り打上げ時期が流動的になりました。ずるずる延期を繰り返し、結局半年以上遅れて2016年5月6日の打ち上げとなりました。出発直前まで何度も米国向けフライトの変更を繰り返し、滞在中もやきもきしましたが、滞在予定最終日の真夜中に打ち上げは見事成功しました。ちなみに、第一段ロケットは任務を終えた後、大西洋上に浮かべた無人のドローンシップに再着陸させるという離れ業も併せて成功させ、ロケット再利用への道を大きく前進させました。宇宙業界だけでなく今や世界で最も注目を集める企業家イーロン・マスク率いるスペースX社と長期間にわたり一緒に仕事を進める中で、彼らの推し進めるイノベーションの数々に驚きとカルチャーショックを覚えることが多々ありました。ここでは紙面の都合上紹介できないのが残念です。

アリアン5　3回目は、年の瀬が迫った昨年（2016年）12月下旬、南アメリカのフランス領ギアナ宇宙基地から、アリアンスペース社のアリアン5による当社衛星の打ち上げです。この時も直前まで延期を繰り返し、当初予定から2か月強の遅れとなりました。クリスマス休暇にかかるとさらに大幅な遅延が避けらないため、関係者のプレッシャーは相当なものでしたが、12月21日の夕刻、見事打ち上げに成功しました。打ち上げ成功直後には、ギアナスペースセンターの管制室で各社の代表がスピーチをすることが恒例行事になっていますが、サンタクロースの帽子をかぶり安堵の気持ち一杯でスピーチしたのが忘れられない想い出です。

おわりに

現在、商用衛星の打ち上げ市場では、アリアンスペース社とスペースX社が世界のシェアを二分し激しい競争を繰り広げています。アリアン5は約80回の連続打上げ成功記録を誇りますが、スペースXの登場で抜本的な戦略の練り直しを余儀なくされ大規模な会社再編を実施しました。スペースX社はいくつかの失敗によるスケジュール遅れに悩まされつつも、難易度の高い新技術の開発に果敢にチャレンジし、人類を火星に送り込むという遠大な目標に向かって怯むことなく突き進んでいます。両社と仕事を進める中で、対極ともいえる両社の企業風土や価値観の違いに触れることができたのは貴重な体験でした。

かつてアリアンと世界の市場を分け合い優位なポジションを占めたロシアのプロトンは、近年事故が相次ぎ後退を余儀なくされてきましたが、次世代ロケットで巻き返しを狙っています。国産のH－ⅡAロケットは、信頼性の面では誰もが認める世界のトップクラスですが、コスト面や年間打ち上げ回数で課題を抱え、次世代ロケットH－Ⅲで世界と戦えることを目指しています。そんな中、今年の3月にはアマゾンのジェフ・ベゾス率いるブルーオリジン社が、新たに商用静止衛星の打ち上げ市場に参入する旨表明し、世間の注目を浴びました。国や政府機関の打ち上げ及び商用衛星の打ち上げに君臨してきた既存の大手プレーヤーに対抗し、ベンチャー企業出身のスペースX社やブルーオリジン社が新たに加わり、これまでの寡占市場が一転し大競争時代に突入しました。今後の展開に目が離せません。

本部だより

洛友会本部役員会報告

平成29年度役員会は、去る6月25日（日）正午より、東京学士会館にて、長尾会長、4名の新旧副会長、9支部長（代理を含む）、本部役員の合計20名の出席を得て開催されました。役員会は、昼食を済ませた後、長尾会長の開会挨拶で始まり、佐藤事務局長の司会で進められました。

まず、平成28年度事業報告と同決算、平成29年度事業計画と同予算案、役員の改選がそれぞれ審議承認され、総会に提案されることになりました。また、2名の推薦会員が承認され、洛友会報の原稿依頼が承認されました。

引き続き、支部活動の状況が各支部から紹介され、意見交換を行いました。各々の支部も、支部の規模に応じて会員向けのさまざまなイベントを開催し、若手会員の掘り起しや会費納入率の向上にも取り組んでいます。参加メンバーの固定化・高年齢化が悩みのひとつで、地方に転勤や移住した会員は是非参加をお願いします。また、京都大学全体の地域同窓会への協力も行っています。

推薦会員

（平成29年6月25日承認）

・大木　英司　教授
通信情報システム専攻
（慶応義塾大　平11年博）

・今井　宏彦　助教
システム科学専攻
（大阪大　博）

洛友会本部総会報告

平成29年度本部総会は6月25日（日）午後、京都タワーホテルにおいて、関西支部総会に引き続いて開催されました。会員70名の出席がありました。

長尾会長の開会挨拶の後、佐藤事務局長の司会で、平成27年度の事業報告と決算、29年度の事業計画と予算案、役員の変更がそれぞれ承認されました。

続いて、佐藤事務局長により、洛友会本部報告と電気系教室の現況紹介がなされました。28年度の活動事業として、洛友会主催の先輩と学生との交流会や電気系教室懇話会の様子が紹介されました。また、洛友会が後援しているエレクトロニクスサマーキャンプについて、参加している学生会員の活き活きとした様子などが紹介されました。さらに、WEB名簿管理システムやHPからの閲覧方式について、手短かに説明がなされました。引き続き、現在の京都大学の吉田キャンパスと桂キャンパスの風景がそれぞれ紹介され、また、電気系教室の組織の変更や学生の就職状況などが報告されました。

役員の変更

平成29年度の役員は次の通りです。

顧　問　昭30　木村　磐根（再）
会　長　昭34　長尾　真（再）
副会長　昭53　小野寺秀俊（再：教室）
　　昭48　安田　豊（退）
　　昭50　小森　光修（新）
　　昭49　西　亨（退）
　　昭50　安部川　信（新）
幹　事　昭41　荒木　光彦（再：幹事長）
　　昭51　佐藤　亨（再：事務局長）
　　昭49　高岡　義寛（再）
　　昭54　守倉　正博（再：学科長）
　　昭56　和田　修己（再）
　　昭53　藤田　静雄（再）

教室だより

2016年度電気系研究室対抗野球大会閉幕

昨年7月より行われておりました電気系研究室対抗野球大会が、3月30日をもって終了しました。

今年度は、桂地区から15チーム、吉田地区から4チーム、宇治地区から1チームの合計20チーム（26研究室）が参加しました。

予選は桂地区Aブロック、桂地区Bブロック、吉田・宇治地区の3ブロックに分かれてトーナメント形式で行われ、桂Aブロックからは和田研究室、桂Bブロックからは北野研究室、吉田・宇治地区地区からは守倉研究室・原田研究室・高橋研究室合同チームが、それぞれ決勝へ駒を進めました。

決勝はこれらの3チームによる総当たり戦で行われ、優勝は桂B地区代表の北野研究室チーム、準優勝は、守倉研究室・原田研究室・高橋研究室合同チーム、三位は和田研究室となりました。

小林研究室M2　關　祐亮　記

新入生歓迎茶話会

4月7日、京都市勧業館みやこめっせで京都大学の入学式が行われ、午後からは電気総合館にて電気電子工学科新入生ガイダンスが行われた。夕刻には、京大生協南食堂にて新入生歓迎茶話会（洛友会共催）が行われた。

学科ガイダンスにて洛友会の説明を受け、学生員として入会した電気電子工学科の新入生（134名）が約20名の教職員とともに、会場に参集した。

荒木光彦幹事長は挨拶で、洛友会の成り立ち、最近の取り組

み、学生会員の意義などについて説明された。新入生を歓迎するお茶やジュースでの乾杯が終わると、たちまちに賑やかな声が会場に溢れ出した。出身地、志望動機、下宿やサークルなどの話題で盛り上がり、教員との初めての対面で将来に対する夢などの話題が弾んだ。歓迎茶話会を通じて学生同士の輪も広がり、友人、仲間づくりの第一歩となったようである。

学科長（H29年度）
守倉正博　記

会員寄稿

御朱印集めの魅力

乾　貴行
（平20年卒・関西支部）

私の趣味は寺社巡りである。寺社には、縁起や辿ってきた歴史、仏像や建築物など魅力がたくさんあるが、御朱印も大きな魅力の一つである。御朱印は、寺社にお参りした証にいただくスタンプであり、たいていの場合、寺社職員の手により寺社名やご本尊等の墨書きがされる。紙に書いたものをいただくこともあるが、持参した専用の朱印帳に書いていただくのが普通である。御朱印をいただくのにちょっとした作法もあったりするが、朱印帳や御朱印の美しさや、朱印帳が埋まっていくというコレクション性、日付と寺社名が入り旅の記念になるという点からか、いま御朱印が空前のブームとなっている。御朱印と出会ったきっかけをはじめ、私なりの御朱印集めの楽しみ方を紹介したい。

私がはじめて御朱印をいただいたのは、まだ学生時代の約十年前、和歌山県那智の滝近くの青岸渡寺であった。青岸渡寺は西国三十三所霊場第一番札所であるので、ここを目的に行く方も多いのであるが、当時は学生旅行のついでであった。霊場巡りといえばお遍路さんの恰好をして徒歩で巡礼というイメージがあったが、普通の恰好をした人がバスツアーで来て御朱印をもらって帰っていく。しかもバスはひっきりなしに来る。売店に行くと、西国巡礼の為の専用の朱印帳があった。朱印帳には西国三十三所の寺院名や御詠歌が載っており、奈良興福寺や京都清水寺のような一大観光地が含まれていた。御詠歌も素敵である。札所は関西一円に広がっていて、旅のついでにスタンプラリーのように集められる点も魅力的だった。こうして、西国三十三所巡りとともに御朱印集めをはじめたのであるが、いろいろと行っていくうちに知識もついてきて、どんどん寺社巡りにはまっていった。

御朱印集めの楽しみ方の一つにこのような霊場巡りがある。目的地が明確であり、行く場所に迷うこともない。専用の朱印帳があるものは埋まっていく達成感もある。一つの霊場を何巡もするもよいし、違った霊場巡りをするのも面白い。私が住む関西周辺には、主要な観音霊場だけでも西国三十三所・新西国三十三所・洛陽観音霊場がある。西国三十三所満願の後、しばらく霊場巡りをしていなかったが、去年四天王寺に行ったのをきっかけに霊場巡り熱に再度火がつき、いまは新西国三十三所巡りをしている。これが終われば、洛陽観音霊場巡りというように、一つずつ楽しみたいと思っている。そのほかにも、西国薬師四十九霊場や法然上人二十五霊場などが待っている。大きいお寺になると多数の霊場の札所となっている。例えば京都清水寺は、西国三十三所十六番札所だけでなく洛陽観音霊場十～十四番札所であり法然上人二十五霊場十三番札所である。同じ寺社でも何回も違った切り口でお参りできるのも霊場巡りの楽しみ方の一つではないかと思う。余談であるが、御朱印代金は一つあたり三百円なので、一気にこの七つの御朱印をもらうと二千百円かかる。

霊場の札所となっているもの以外にも御朱印はたくさんある。例えば奈良東大寺は、指図堂が法然上人二十五霊場十一番札所にあたっているが、それとは別に大仏殿だけで数種類、その他ざっと十数種類の異なる御朱印がある。霊場巡りであれば専用の朱印帳を使えばいいが、そうでないものを集めるときにどの朱印帳を使うかというのは悩ましい問題である。文具店や雑貨店でも売っているようであるが、寺社で朱印帳を買うのが一般的であると思う。無地のものだけでなく、寺社オリジナルの朱印帳もたくさんある。控えめな柄のものから、その寺社をあらわす刺繍を施したものまで実に様々であり、朱印帳そのものを集めている人もいるようである。私も、残りが少なくなるたびに次の朱印帳をどうするかインターネットで調べるが、これが結構楽しい。ただ、狙った朱印帳が手に入るとは限らず、吉水神社の朱印帳を買いに行ったら売り切れていて手に入らなかった。機会があればぜひとも手に入れたい。朱印帳を寺社で買うと、はじめのページにその寺社の御朱印があらかじめ書かれていることが多い。買った場で日付だけ入れて渡してくれるので、書く時間削減にもなり合理的だと思う。ただ、平安神宮で朱印帳を買った時には、御朱印だけでなくその日の日付まですでに筆が入っていた。売れなかったらどうするのだろうか。

寺院でも神社でも御朱印をいただくことができるが微妙な違いがある。例えば、神社用の朱印帳は寺院用のものより一回り小さく、寺院用と神社用では朱印帳を分けることが望ましい。御朱印をいただくためには、寺

院では納経所に、神社では社務所に行けばよい。寺院の場合、納経所に人がいなくともインターホンでお呼び出しすれば対応していただけることが多い。霊場の札所となっている場所でも、平日は人がいないこともあり、はじめは勇気がいった。ただ、お呼び出しすれば対応いただけるので問題はない。一方、神社で社務所に人がいないところは違う。たいてい呼び出し先がわからない。そのため、確実に御朱印をもらうためには、祭りの日等宮司がいるであろう時を狙う必要がある。

限定御朱印もある。正月三が日限定というものもあるが、秘仏ご開帳や特別拝観・特別展示にあわせて実施するものが多い。通常と異なる趣向の一つとして、金泥を使ったり、張るタイプのものであれば紙が色紙であったりというものもある。絵を描いてくれるものもある。こうした企画がされるのは観光地なので、普段でさえ御朱印をいただくのに列に並ぶが、期間中はものすごい列が長くなる。書く人の手が心配であるが、相当儲かるのではないかとも思う。

雑誌の付録に朱印帳が付いていたり、限定御朱印といった企画がされたり、いま御朱印はブームなのだとつくづく感じる。古くから続く日本の文化であるため、ブームで終わることなく長く続いてほしいと思う。御朱印は寺社や宗派の考え方など新たな気づきを与えてくれるものでもあるため、今後も御朱印集めを細く長く楽しみたい。

札幌での暮らしと旭川旅行

筒井　弘
（平12年卒・北海道支部）

私は、平成25年（2013年）5月1日付で北海道大学大学院情報科学研究科に准教授として着任し、現在札幌で暮らしております。それまではずっと関西におりまして、学会発表等で札幌に行く機会はありましたが、札幌の冬を経験したことがなく、また、暮らしてみるといろいろ関西と異なることもあり、当初はいろいろある意味衝撃の連続でした。札幌での暮らしぶりについて尋ねられることがあるのですが、特に印象深い点をいくつかご紹介させていただきます。

札幌も京都と同じく碁盤の目状の町の構造をしており、南北はさっぽろ雪まつりの会場にもなる大通を、東西は人工河川である創成川を基準として、たとえば勤務先である北海道大学情報科学研究科は北14条西9丁目という住所になります。ただしこの条・丁目の番号は道路に付いているわけではなく、区画（ブロック）の方の呼び方になります。従って、交差点の道路標識には四つの数字のペアが並ぶことになります。

冬の札幌は石狩湾方向からの風の影響でかなりの積雪があります。除雪・排雪が行われますが、除雪により雪は一時的に路肩付近に積まれます。従って、一方向二車線ある道路では歩道側に近い車線に人の背丈を超えるぐらいの高さまで雪が積まれ、歩道と車道を完全に分離する形になります。札幌に住み始めた当初、道幅の広さに多少違和感を覚えていたのですが、それはこのためでした。

冬の寒い時期は昼間でも外気温が氷点下になります。そのため湿度が常に極めて低く、乾燥と静電気に悩まされます。こちらで住む部屋を探していた時に気づいたのですが、冬の寒さ対策として窓が二重窓になっているのは有名ですが、札幌の住宅には雨戸もしくは鎧戸と呼ばれるものが基本的にありません。マンションの一階であってもありません。台風が来ないからというのが主な理由とのことです。雨戸には長期間留守にする際の防犯の意味もあるので、その観点では若干不用心に感じました。

主に転入の影響ですが札幌は人口増加傾向にあり、子供も比較的多い印象を受けます。お祭りやイベントごとも盛んで、なにがしかのイベントがいつもどこかで行われている印象があります。また、冬の札幌の公園にはちょっとした雪山ができており、子供はそこで「米ぞり」と呼ばれる米袋で作ったそりで遊んでいます。雪のことを考慮してか公園の数も多く自然豊かで、子供にとっては非常に良い環境なのかもしれません。

そんな札幌での暮らしですが、たまに家族で道内を旅行します。今年のゴールデンウィークは二泊三日で「櫻子さんの足下には死体が埋まっている」の原作およびアニメの舞台でもある旭川に行ってきました。本寄稿の残りは旭川の話です。

北海道の桜の時期は例年ゴールデンウィーク前後なのですが、札幌を出る時はまだ桜が咲いていない状態でしたが、旅行中に桜前線に追いつかれた感じとなり、旭川の各所で桜を堪能しました。

旭川ですが、札幌から特急電車を使って一時間半程度で行くことが出来ます。私にとっては2008年6月に旭川市国際会

旭川駅北側

議場（旭川市大雪クリスタルホール内）で開催された電子情報通信学会スマートインフォメディア研究会に参加して以来の旭川でした。当時にくらべ駅前の景色がかなり様変わりしていました。「北彩都あさひかわ」と呼ばれる再開発事業によるものだそうです。JRは高架化され、非常にきれいな駅舎ができ、駅の北側には、駅直結のイオンモールおよびJRインができていました。その一方で、駅の南側には忠別川が流れ、一帯が公園として整備されていました。

一日目はその駅周辺を散策、その後大雪地ビール館に行きました。明治時代頃から使われていた煉瓦造りの倉庫を改造した趣のある建物で、文化財登録されているそうです。二日目は定番の旭山動物園に行った後、大雪山まで足を延ばし温泉宿に滞在しました。三日目は東山町の道の駅に寄った後、最後に上野ファームに行きました。射的山と呼ばれる小さな丘の麓にある庭園で、観光スポットの一つです。屯田兵の射撃訓練場があったため射的山と呼ばれているとのことです。上野ファームから標高170mほどの射的山に登り、美しい風景を堪能しました。

とりとめのない文章となってしまいましたが、観光資源豊かな北海道におりますので、また機会を見つけて今後も是非道内の様々な場所に行ってみたいと思っております。

旭川駅南

射的山からの風景

同窓会だより

昭和46年学部　卒業生同期会

平成29年3月17日、昭和46年卒業の同期の面々が、箱根湯本冨士屋ホテルに参集した。「卒業45周年記念」の同窓会で、同期22名と奥様8名の総勢30名で、関東から22名、関東以外の遠方から京都大学の吉田氏を含め8名であった。

懇親会に先立ち、酔っ払わないうちに記念の写真をということで、まずは1枚。（写真1）

次に、特別企画として、同期の横井氏のテノールと下間氏の奥様澄子様のピアノ伴奏によるミニコンサートの開催。自宅に音楽部屋を持ち、月に1回程度何らかのコンサートをしている横井氏が颯爽と登場し、イタリア民謡「カタリカタリ」、日本歌曲「落葉松（カラマツ）」、イタリアオペラ「トスカ」からなど人生を楽しくというテーマで素晴らしい歌を披露してもらい、アンコールは、「オーソレミオ」で、大変な盛り上がり。ホテルの人も、こんな趣向の同窓会は、めったにないと大絶賛。（写真2）張りのある声に圧倒されながら聞き惚れた後、ピアノ演奏に合わせて「ふるさと」と「琵琶湖周航の歌」を皆で合唱した。（写真3）ボート部出身の橋本氏が飛び入りで音頭を。

本番の懇親会は、色々とご苦労いただいた原川幹事長の乾杯

写真1

写真2

写真3

の音頭でスタート。5つの円卓に分かれて懇談を深めつつ、全員のスピーチへと進んだ。「孫の世話で、奥さんが来られない」という話、「旦那さんもっと働いて」という奥様の声、色々な病気からの回復や健康法などの話題、社交ダンス・山登り・合唱など趣味の話題、カブト虫やペットなど飼育の話題、京大での実験の思い出話、「女房を尊敬している」という本音？の声とか、様々な話題豊富なスピーチやこだわりの話を聞いているうちにあっという間に時間が過ぎていった。

やはり、酔っ払った後は「琵琶湖周航の歌」ということで、再度合唱した後、5年後の50周年に、更なる参加人数を期待して皆さん元気に再会しましょうということで3時間半にわたる大イベントのお開きとなった。

その後、奥様グループが全員女子会ならぬ「女史会」へ流れ込み、男性陣有志も負けずに夜遅くまで盛り上がった。

翌日は、天気にも恵まれ、「観光組」は14名で「旧箱根街道一里塚跡」をはじめ箱根散策を、「ゴルフ組」は6名で富士屋ホテル仙石ゴルフコースでのラウンドにと箱根の休日を大いに楽しんだ。（写真4、5）幹事役の皆様、参加の皆様お疲れ様でした。

宇治　則孝　記

写真4

写真5

昭和32年卒 60周年記念クラス会

一．樂友会館と私たち

昭和32年の卒業式当日、樂友会館で院生、学部生共同での謝恩会を開き、先生方の激励を受けてここから巣立ちました。

その意味で当日、当場所が私たち「洛友32会」の原点です。

これは当日の記念写真で、前列は恩師、左の方には2年先輩の、木村先生、西川先生、岡田先生などのお顔が見えます。

卒業60周年の記念会は当然この原点に帰って開催しなければなりません。

二．第一日

今回は第16回のクラス会でした。平成29年4月25日の昼、樂友会館にて32名（内同伴夫人11名）が三年振りの出会いを楽しみました。

先ず学歌を斉唱して学生に戻り、入学以降の想い出の映像をDVDで鑑賞しました。

また他界された一二名の遺影を映し、在りし日の友を偲びました。

十三名の「残念ながら参加できない」方の近況を報告し、不都合の早期解消を願いました。

その後は歓声と杯が飛び交う愉快なひと時でした。

60年前を回顧し、いまなおこのように親しい友に会える幸せと、未踏の山頂を極めたような感激に浸りながら。

今回の記録を追記して60周年記念DVDを完成させることになっています。

六〇周年を通過点とし、還暦の次は古希です。70周年はどのようになっているか楽しみです。

先ず二年後に次回の開催をすることを決めました。

終宴には松田先生の洛友会の歌を斉唱し♪また会う日まで強くいきなん♪と誓い合いました。

三．第二日

翌26日は京都御苑を楽しむプランです。

閑院宮邸跡収納展示室で、ガ

イドから宮家、御苑、御所、公家の歴史を聞きました。

御苑の里桜と御衣黄桜はまだ満開で私たちを待っていてくれました。

昼過ぎに、借り切りの九条家の茶室「拾翠亭」へ移りました。二階から寝そべって九条池を眺め、お公家気分を味わいました。

大勢が狭い茶室で膝を突き合わせて歓談し、賑やかに昼食を楽しみました。

九条池に面した茶室の縁側一杯に拡がって撮った全員写真は記念に残ることでしょう。

名残惜しみながら二年後の再会を約束して別れました。

西台　惇　記

昭和29年卒（二九稀会）平成29年同窓会

昭和29年（1954年）卒業生の同窓会である二九稀会は3年前の卒業60周年記念の同窓会をもって打ち切りとなったが（50周年記念同窓会の折にも同様の宣言がなされた）、ときどき開いてはどうかとの声が強く、今年は平成29年で年号こそ違え会の名前にちなんだ年でもあるので、5月23日に開催することとした。

何分、3名の幹事も満85歳という後期高々齢者であり、会場選択の手間を省くために今回は趣を変え、3名が月に1回の昼食会をもっていて勝手の知った神戸灘の酒造会社「酒心館」の酒蔵を活用した料亭「さかばやし」で本場の日本酒と会席料理を味わう会とした。なお酒心館はiPS細胞研究所山中所長がノーベル賞を受賞されたとき、祝賀晩餐会で供された日本酒銘柄「福寿」の蔵元である。

当日は早朝にJR神戸線でちょっとした事故があってダイヤが乱れ、メンバーの到着に遅れがでないか懸念されたが幸い大きな遅れはなく、送迎バスが到着し全員が会場に入るやいなや、昔にかえって華やいだ声が響いた。

卒業時は約70名であった会員も現在は37名となり、うち16名が出席した。幹事代表の開会のあいさつに続き、乾杯の音頭で一同杯を挙げ、互いの健勝を祈念して開宴、3年ぶりの再会に大いに話がはずんだ。とはいえ歳は争えず、折角ノーベル賞晩餐会に出た酒や蔵出しの生酒を前にして飲んだ量は僅かで、皆さん健康に留意していることがよくわかった。

宴が終わりに近づくと、2年後には全員数えの88歳以上になるので米寿記念の同窓会を開こうではないかとの声が出て異議無く賛成、盛況裡に会は終了した。その後売店で酒その他の買い物をすませ、送迎バスでJRおよび阪急の最寄り駅まで送ってもらい、2年後の再会を約して解散した。

片井　正男　記

昭和四二年学部卒・四四年修士修了合同洛友会同窓会

我々昭和四二年学部卒・四四年修士修了の合同同窓会を平成二九年六月七日（水）に京都大学吉田キャンパス　百周年時計台記念館の国際交流ホールにて開催しました。

正午に受付開始でしたが、幹事は午前十時四十五分に集合し準備に取り掛かりました。幹事以外の人たちも待ちきれずに集まり始め、あちらこちらで話の輪ができ、中には半世紀ぶりの再会を懐かしむ姿もありました。集合写真を撮った後、仁田旦三幹事長司会のもと、まず最初に洛友会事務局長で情報学研究科の佐藤亨教授による、「京大電気系の現状」について講演を頂きました。何と、電気系教室は1897年創設で120年の歴史があります。我々1967年卒業組は3学科135名でしたが、1995年に電気電子工学科に統合され人数は変わらず130名程だということです。又、我々在学中は思いもよらなかった女子生徒の在席は毎年5・6名とのことです。確かにキャンパスを歩いていても生き生きとした女子生徒が多かったように思います。

開宴に先立ち「物故者への黙祷」を捧げ、続いて今岡幹典さんの「人が老いるのは、齢を重ねることではなく、理想を失った時に始まる。いつまでも青春の心を持ち続けよう」との祈念のもと、乾杯をして開宴しました。

あっちこっちでワイワイ、ガヤガヤ楽しい懇談の場ができました。全員参加による「一分間スピーチ」は厳しい時間制限で、上手に纏める人、話半ばで打ち切る人、中には無視する人も。

内容は山登り、水泳、テニス等の「健康法」。旅行等の「趣味」が多く、間宮　馨さんからは「子・孫のために自伝作成のすすめ」

もあり、皆さん有効に時を過ごされているようです。そして、有志による小集団活動も活発で「大阪組」は毎月42洛友会で昼間っからの酒浸り。「東京組」も定例忘年会。今岡さん主催の四国を舞台にした「金毘羅詣で」、「瀬戸内海離島巡り」。川合一さん主催の「台湾ツアー」と色々あり、今回は「囲碁・麻雀」の仲間募集もありました。

あっという間に終宴の時間で、浜口友一さんの挨拶となりました。最後を締めくくり、昔懐かしい「三高寮歌・逍遥の歌」を全員起立で肩を組み齢を感じさせない熱唱となりました。我らの合言葉は「青春の心」です。

次回は出身者も多い中間地点の名古屋での開催を約し、二時間（実質四時間）に及ぶ宴は御開きとなりました。

江頭英隆（撮影）、亀山卓郎（記）

支部だより

四国支部総会報告

平成29年6月2日（金）、高松市内の「JRホテルクレメント高松」において、第62回洛友会四国支部総会が開催されました。

本部から荒木光彦幹事長ならびに教室から白石誠司教授にご出席いただき、四国内からは28名の会員が集まりました。

総会の冒頭で、この1年間でご逝去された昭和39年卒の水渓様、昭和41年卒の森田様お二人を偲び、黙祷を捧げました。次に、山地四国支部長（昭和48年卒）の挨拶があり、電気事業の最近の状況について、電力全面自由化により既存の電力会社から新会社への切り替えが増加傾向にある状況や、再生可能エネルギーが近年増加しているものの、これらの買取価格の国民負担が大幅な増加傾向にあることについてのマスコミ報道があまりされていない現状について、最後に、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉、賠償、除染に多額の費用がかかっている点について、国民や地域への影響の観点からの紹介がありました。

第62回洛友会四国支部総会　平成29年6月2日 於 JRホテルクレメント高松

次に、荒木幹事長から、エレクトロニクスサマーキャンプや先輩と学生との交流会、会員専用Webサービスなど、洛友会の運営状況についてお話しいただきました。また、白石教授から、吉田キャンパスや桂キャンパスの様子や電気系教室の近況などについて、写真を交えながらご紹介いただき、支部会員は自らの学生時代を思い起こしながら興味深く聞き入っておりました。

続いて、四国支部幹事から平成28年度事業報告、会計報告、平成29年度予算案について説明があり、満場一致で承認されました。

総会終了後、井上先輩（昭和29年卒）の乾杯音頭で懇親会が始まりました。先生方や久し振りの友人と酒を酌み交わしながら歓談しているうちに、あっという間に予定の時間となり、最後に恒例となっている「逍遥歌」と「琵琶湖周航の歌」の大合唱で会を締めくくりました。

その後、有志一同は高松市内にて、荒木先生の美声に酔いしれながら深夜まで親交を深めました。

繁桝真一郎（平15年卒）記

北陸支部総会報告

平成29年6月3日（土）福井市の「かき恭」において、平成29年度北陸支部総会を開催しました。本部ならびに教室を代表して、佐藤高史教授をお迎えし、北陸支部からは、16名が出席しました。

支部総会前には、例年同様、講演会を開催いたしました。今回は佐藤先生に研究室の研究内容、中でも「二次元イジングモデルによる最大カット問題の高速計算」について、組合せ最適化問題を高速に解く方法とその結果をご紹介頂きました。また、講演内容に対する質疑も活発に行われました。

支部総会では、葛原支部長より、北陸支部総会は毎年開催され、日ごろ陥りがちなローカルミニマムから解放させてもらう貴重な集まりである。人数もあまり多くないことから、リラックスさせてもらうし、皆さんも楽しい時間を過ごして頂きたい、と挨拶がなされました。

続いて佐藤先生より、電気系教室の近況として、吉田・桂キャンパスの様子、教員の方々の異動状況などについてご紹介いただきました。最後に、支部幹事から支部近況報告、会計報告、支部役員改選に関する議案を説明し、満場一致で承認されました。

総会終了後、記念写真を撮影し、その後、懇親会を開催しました。懇親会は、冒頭、葛原支部長のご挨拶、金森評議員の音頭による乾杯で幕を開け、先生方や先輩・後輩と酒を酌み交わして歓談し、楽しいひと時を過ごしました。最後に琵琶湖周航の歌を全員で合唱し、前川公男先輩（昭47年卒）のご発声のもと、万歳で散会となりました。

笠川　隆（平10年卒）記

改選された支部役員

顧　問　西村尚和（昭23）
　　中島恭一（昭40）
　　松木純也（昭44）
支部長　葛原正明（昭54）
副支部長　久和　進（昭47）
評議員　金森関治（昭40）
　　柴田　明（昭40院）
　　西念　勉（昭46）
幹　事　野村保之（昭52）
　　中田和男（昭63）
　　石丸哲也（平元）
　　朝倉　茂（平12）

洛友会会報
関西支部総会報告

平成29年6月4日（日）、京都の新・都ホテルにおいて、関西支部総会が51名の参加を得て開催されました。

総会に先立ち、「日本の技術・工学に思う」と題して講演会を開催しました。講演会では、東京大学名誉教授の仁田　旦三先生（昭和42年卒）より、日本の技術の特徴、得意とする技術領域を踏まえ、日本の技術の進歩のためには、その「評価」のやり方が最も重要であること。日本の文化を忘れず、創造的技術をつぶしてしまわないことが重要であること、等をわかりやすくお話しいただき、参加者にとって大変興味深い講演会となりました。

支部総会は、田中総務幹事の司会のもと駒谷支部長のご挨拶で始まりました。各幹事から平成28年度行事報告ならびに決算報告があり、また平成29年度行事計画および予算編成ならびに平成29年度関西支部役員改選について審議され、満場一致で承認されました。平成29年度の新役員は、

支部長　土井　義宏（昭和52年卒）
副支部長　大西　豊（昭和53年卒）
　　大久保昌利（昭和60年卒）
総務幹事　木谷　博昭（平成7年卒）
会計幹事

の各氏です。

支部総会に引き続いて、洛友会幹事長の荒木先生より洛友会本部活動、事務局長の佐藤先生より電気系教室の現況などをご説明いただきました。

総会終了後は引き続き懇親会が開催されました。洛友会会長の長尾先生のご挨拶の後、木村先生に乾杯のご発声をいただきました。懇親会中は終始和やかな歓談の場となり、楽しい一時を過ごすことができました。終わりには、西台様に先導いただいて「洛友会の歌」を全員で斉唱し、最後に西川先生より締めのご挨拶をいただいて散会となりました。

沖　雅雄（昭63年卒）記

中国支部
企業見学会の開催について

平成29年3月24日（金）に16名の支部会員に参加していただき、広島県呉市の中国木材株式会社様を訪問しました。

中国木材株式会社様は、製材事業を核として、乾燥材や集成材の製造・加工から物流まで一貫した体制で行い、低コストで高品質な住宅づくりを支える住宅用構造材メーカーであり、国内の人工乾燥梁・桁の約80％は、中国木材株式会社様の製品となっている等、日本の住宅市場においてなくてはならない企業です。

当日は、工場に隣接したバースで荷揚げされた原木が、自動化された工場内で様々なサイズに加工され、乾燥材や集成材の原料材になる様子を、一つ一つ丁寧にご説明頂きました。中国木材株式会社様では、世界最大規模の原木船による直輸入の体制や、業界最大級の乾燥設備を整える等、大規模化によりコスト削減を推進されるとともに、住宅建築現場の工期短縮等の観点からプレカット加工を自ら行う体制も構築され、顧客ニーズに応える体制も構築されておられるとのことでした。また原木は、管理された森林から計画的に伐採されたものであり、伐採に併せて植林を行うことで、長期的に持続可能な資源再生サイクルを確立しているとのことでした。

原木の加工工場に続いては、工場に併設されているバイオマス発電プラントも見学させていただきました。燃料には工場で出てきた製材端材であるバーク、オガ、木くずを使われておられ、発生蒸気の一部は木材乾燥にも利用されているとのことでした。バイオマス燃料は化石燃料に比べて取扱いが難しく、燃料搬送でトラブルが多いとのことでしたが、以前であれば処分されていた製材端材が余すところなく活用されており、大変印象的でした。

中国木材株式会社の皆様には、年度末のご多忙な時期にも関わらず、ご丁寧に説明頂き、会員一同、森林資源の利用に関する知識を深めるとともに、低コスト化や環境問題への取組み姿勢に大変感銘を受けました。

見学会後は、呉市内のイタリア料理セディータでの会食を通じて、会員間の親睦を深めることができました。

今後ともより多くの会員の皆様に参加していただける企画を実行し、洛友会中国支部の活動を盛り上げていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

望月　和之（平14年卒）記

事務局だより

－訂正－

洛友会会報第256号P．5会員寄稿「40年の研究生活を振り返って」におきまして、著者の「川原崎雅敏」様のお名前が「川原　崎雅敏」となっておりました。申し訳ございません。

訂正してお詫び申し上げます。

訃報

昭17　池田　豊　28・3・19
昭17　古川満智雄　27・12・13
昭20　浜田　豊秋　26・4・17
昭20　西原　宏　28・11・15
昭22　井上　堯　29・4・7
昭24　小林　忠　29・1・30
昭26　北尾　孝也　29・3・17
昭26　玉井昌太郎　29・1・9
昭28　谷口　一郎　29・3・20
昭28　小柳　幸夫　29・4・22
昭29　岩井　勵　29・5・5
昭29　西山　節男　28・9
昭33　小西　達夫　29・3
昭34　澤野　進　28・11・23
昭35　来海　利夫　28
昭36　若林　義雄　29・3・29
昭38　相沢　輝昭　28・11・11
昭40　鯉淵　俊男　28・7・8
昭47　野村　博司　28・12

以上の方々がご逝去なさいました。

謹んで哀悼の意を表します。

平成29年度 懇話会 開催のご案内

在校生（学生会員）と卒業生（正会員）の親睦をはかり、在校生に先輩からのメッセージを伝えて激励するために、洛友会と電気系教室との共催で懇話会を毎年開催しています。今年度は左記のように開催されますので、奮ってご参加下さるようご案内いたします。

詳しいプログラムは、次回会報とホームページにてお知らせいたします。

記

日　時：平成29年11月17日（金）14時30分～19時30分
場　所：吉田キャンパス電気総合館 大講義室
懇親会：生協北部食堂2階

プログラム（予定）：

14時30分～　開会挨拶
（電気電子工学科 学科長　守倉正博 教授）
14時40分～　吉川　潔　先生
（京都大学名誉教授）
15時30分～　吉田　知樹　氏
（NTTネオメイト・平10年卒）
16時20分～　休憩
16時30分～　三谷　公二　氏
（NHK放送技術研究所・昭60年卒）
18時00分～　懇親会（生協北部食堂2F）
（会費：社会人3，000円、学生 無料）

連絡先：電気電子工学科事務室
電　話：075－753－5273
FAX：075－753－5271
Eメール：konwa-kai@kuee.kyoto-u.ac.jp